



家庭と学校ががっちり手を繋ぐ2年目に

「寛容さ」と幸福度の関係 ～ご家族は、あなたは幸せを感じていますか？～

半月ほど前の民報新聞の記事です。新年度にあたって、とても大切な視点が盛り込まれています。今号では、保護者や地域の皆さんと一緒に考えてみたいと思いますので、まずご一読下さい。一段落目では自身の挨拶について、年度始めに改めて振り返ってみましょうと述べています。

二段落目では「きちんとした挨拶」はコミュニケーションの基本であり、お互いに「信頼」と「寛容さ」を生み出すと述べています。

そして三段落目では、日本の世界幸福度ランキングが先進国中最下位となっている理由として、「寛容でない」ことをあげ、それが幸福度を下げる要因であると述べています。

そして、まとめとして、「寛容さ」の意味合いを解説したあと、きちんとした挨拶がコミュニケーションの潤滑油となり、幸福度を上げていけたらいいと提案しています。

私たちの日常はどうでしょうか？

ちょっとした言葉、ちょっとした行為、さほど大きなことではなくても「不適切」なもの・「不快」なこととして声高に指摘し、それが気になると、「坊主憎けりや袈裟まで憎い」という勢いで、その人の人格までも否定してしまう傾向が見られるのではないのでしょうか。

SNS上で最近よく見られる「炎上」というのは、自分の価値観以外を全否定し、個人をとことん攻撃する、まさに「寛容さ」が存在しない状況になっているように思います。

学校教育の最大の目標は「人格の完成」です。子どもは本来、未完成な、これから育っていく存在です。育っていく過程では失敗したり、時には周囲の人の心を傷付けたり、裏切ったり、信頼をなくしたりしながらも、その都度、軌道修正を繰り返しながら少しずつ成長していきます。

私たち大人はその都度、一人一人と深く、真剣に関わって、物の見方や考え方、相手の気持ちをどう押し量るかや、自分の気持ちをどうコントロールし、どんな言葉で自分の思いを伝えるか等について振り返らせたり、考えさせたりしながら、一人一人がよりよく育つよう、日々、取り組んでいます。友だち同士のトラブルも多々発生するのが学校であり、それが成長の場です。

そんなとき、被害・加害ともに、感情的になって「寛容さ」を失い、その子やその親にまで腹を立ててしまい責め立ててしまうようなことはないのでしょうか。

未来のある子どもたちをよりよく育てるためには、お互いに「寛容さ」を持ってお互いの子どもを大切にしてお互いに向き合っていく視点や姿勢が重要なのではないのでしょうか。

子どもも親も教師も、みんな成長の途中です。まだまだ未熟な存在であることをお互いに認め合い、寛容さをもってお互いを大切に、笑顔で協働していきましょう。「お互いさま」の心で。

医心伝心
福島医大 下村健寿 × 前島裕子

もうすぐ新年度が始まります。この時期はお別れや新たな出会いで気持ち落ち着かない時期でもありますね。新年度を迎えるにあたり、私がおすすめしたいことは「挨拶」です。

挨拶(あいさつ)の励行は、お勤め先や学校で、きちんと挨拶できているかも一度振り返ってみてはいかがでしょうか。

例えは「おはようございませう」と言っていて、挨拶が返ってこなかったり暗い雰囲気を感じたりすることがあります。

「寛容さ」とは相手を受け入れ、許すことという意味合いですが、きちんとした挨拶はそれを可能にすると思います。

きちんとした挨拶はコミュニケーションの潤滑油であり、幸せのもとです。ぜひ新年度は気持ち良い挨拶を心がけ、お互い、いい気分、幸福度を上げていけたら良いですね。

(福島医大病態制御薬理医学講座特任教授・前島裕子)

今年も2023年の世界幸福度ランキングが発表され、日本は世界47位となり、前年の54位から7ランクアップしましたが、「寛容でない」ことが先進国の中で幸福度が最下位になってしまいう原因だそう。

「挨拶」とは相手を受け入れ、許すことという意味合いですが、きちんとした挨拶はそれを可能にすると思います。

きちんとした挨拶はコミュニケーションの潤滑油であり、幸せのもとです。ぜひ新年度は気持ち良い挨拶を心がけ、お互い、いい気分、幸福度を上げていけたら良いですね。

今年も2023年の世界幸福度ランキングが発表され、日本は世界47位となり、前年の54位から7ランクアップしましたが、「寛容でない」ことが先進国の中で幸福度が最下位になってしまいう原因だそう。

「挨拶」とは相手を受け入れ、許すことという意味合いですが、きちんとした挨拶はそれを可能にすると思います。

きちんとした挨拶はコミュニケーションの潤滑油であり、幸せのもとです。ぜひ新年度は気持ち良い挨拶を心がけ、お互い、いい気分、幸福度を上げていけたら良いですね。

今年も2023年の世界幸福度ランキングが発表され、日本は世界47位となり、前年の54位から7ランクアップしましたが、「寛容でない」ことが先進国の中で幸福度が最下位になってしまいう原因だそう。

「挨拶」とは相手を受け入れ、許すことという意味合いですが、きちんとした挨拶はそれを可能にすると思います。

きちんとした挨拶はコミュニケーションの潤滑油であり、幸せのもとです。ぜひ新年度は気持ち良い挨拶を心がけ、お互い、いい気分、幸福度を上げていけたら良いですね。

市民の皆様へ

福島市公立学校働き方改革 市長・教育長メッセージ
～「質の高い学び」と「持続可能な学校」の実現に向けて～

福島市では、このほど、学校における働き方改革の一層の加速化を図るため、「働き方改革推進パッケージ～未来に向けた10のチャレンジ～」(別紙)を作成しました。市・市教育委員会一体となってこの改革を進めてまいります。より実効あるものとするためには、保護者や地域の方々をはじめ市民の皆様のご理解とご協力が不可欠です。市民の皆様のご支援をよろしくお願いいたします。教職員の多忙化は、いまや大きな社会問題です。本市でも、学校や教育委員会において、会議や行事の精選、事務の簡略化、校内組織の見直しなど様々な取組を進めてきました。その結果、教職員の時間外勤務時間は少しずつ減少していますが、依然として相当数の教職員が月45時間を超え、取組の更なる強化が求められている状況です。本市における学校の働き方改革の目的は、子どもたちに「質の高い学び」を提供することと「持続可能な学校」を実現することにあります。教職員が授業準備をしたり、子どもたちと向き合う時間等を確保したりすることで、子どもたちの質の高い学びを実現でき、子どもたちの成長や笑顔につながります。その姿に教職員はやりがいを実感し、自信と新たな創意工夫が生まれます。そのような学校に保護者や地域の方々は、これまで以上に信頼を寄せ応援していただけるものと考えます。この好循環を生み出すことが必ずや本市の「子どものえがお条例」の理念や「子育てと教育で選ばれるまち」の実現につながる、そう確信しています。今後、各学校では大胆な業務内容の精選や教育活動の見直し、役割分担の提案等について相談させていただくこともあると思いますが、市民の皆様には、学校と密接なコミュニケーションを図っていただき、ご理解・ご協力を賜りますようお願いいたします。子どもたちの笑顔のため、今後とも、一番身近な応援団であっていただけたら幸いです。

令和6年4月5日

福島市長 木幡 浩
福島市教育委員会教育長 佐藤 秀美